

# 民報 あばしり

NO.889

2012.10.21

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三二四四五八  
F 四三二四四五七



## 第74回全国都市問題会議に参加して 報告その1

# 東日本大震災で見えた

# 『絆』の可能性

全国市長会などが主催する全国都市問題会議が11・12日の2日間にわたって岩手県盛岡市で行われ、全国の市長をはじめ職員や議員など約1600名が集まりました。網走市議会から毎年2名の議員が参加していますが、今年には松浦議員と栗田議員が参加しました。

はじめに、全国市長会会長の森民夫長岡市長から開会あいさつ、続いて開催地の谷藤裕明盛岡市長の歓迎あいさつ、次に、達増拓也岩手県知事から祝辞がありました。

## 震災復興と都市の役割

基調講演では、震災復興と都市の役割と題して、仙台大学教授で東日本大震災復興構想会議委員をしてい

る高成田 亨氏より講演がありました。東日本大震災から1年半が過ぎ、その風化が言われている。しかし、被災地を歩くと震災前の風景が戻った地域もあるが、がれきが撤去された後の再建計画が決まらず、空き地になつたままのところも多くある。震



災直後から起きた情報伝達の不備は、同じような地震が起きた時、携帯電話が通じるだろうか、非常食料や燃料の備蓄と供給体制は？一時避難所の管理・指揮・連絡体制は？コンビニの保安、協力、活用は？仮設住宅の準備は？非常時における公有地の活用法は？さらには、役所の縦割りによる復興の遅れなどは、どれだけ生かされるのだろうか。明日、他の地域で大震災が起きた時に、今回と同じような問題が起きるのではないかと危惧すると述べ、災害がどこでも起こりうる中で、教訓をいかに生かすかを強調しました。

## 私たちの未来は被災地とともに

また、主報告として、私たちの未来は被災地とともに未来へつなぐ復興の「絆」と題して、谷藤裕明盛岡市長が東日本大震災では、地震と大津波による死者・行方不明者は約1万9000人、その9割は水死したと言われている。また、福島第1原発事故による放射能汚染は解決の目途さえたつていない甚大な被害を及ぼし、日本人の価値観や政治・行政に大きな変化をもたらした。その変化は、社会的なコミュニティやネットワーク意識の高まりとなつて表れ、日本全体が一つになつて震災を受けとめ、困っている人の力になりたいという純粋な思いから、様々な「絆」が生まれ、被災地支援の新たな形が全国規模で広がつたと述べ、県都として様々な取組みについて報告がありました。

## 流氷

わが国の大学の教育費は年々増加し（初年度入学金 国立平均80万円、私立平均130万円）学生、特に低所得

出身者にとっては耐え難い困難を与えています。さらに、それを助けるはずの奨学資金も多くが返済義務のある有償、しかも利子負担付きと勉学の継続を困難にし、時には進学を諦めざるものにさえなっています▼こうした日本の現状に反して、世界の圧倒的な国々では中・高等教育の無償化は常識となっており、「国際人権規約」では「教育に関する権利」として中・高等教育の無償化教育を実施しております▼日本では1979年に規約を批准しておりますが「無償教育」については、その後も「保留」を続け、恥ずかしいことと今では締結国160カ国の中でマダガスカルと日本、たった2国の保留国となつてしまいました。この9月に、やつと政府は「保留撤回」を決めました。が、早期実現が待たれます▼しかし日本の教育財政のレベルは主要国中で最低です。又、無給付奨学金のないのはOECD加盟国中、日本だけです▼政府は今こそ給付制奨学資金の実施と教育予算の飛躍的な充実に取り組んでいく必要があります。「若者たちの未来への展望」無しには、国の未来も開けないのではないか！（K）